

祝 辞

農林水産副大臣 儀崎 陽輔



本日ここに、全国漁港漁場大会が開催されるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

まず、本年4月の熊本地震、今般の度重なる台風によりおくなりになった方に、心からお悔やみ申し上げます。

林漁業者の皆様により添って、復旧に向けて全力を挙げて参ります。

さて、本大会は、漁港・漁場の総合的整備と漁産物の合理的利用の促進を目的として昭和24年の第1回大会以来、本年度で67回を迎えることに

なりました。この間、関係者の皆様におかれましては、漁港・漁場の整備促進はもとより、水産業が抱える様々な課題に積極的

に取り組んでこられたことに、深く敬意を表する次第です。

さて、我が国水産業・漁村をとりまく環境は、漁獲量の減少や漁業者の高齢化、水産物消費の減退など依然厳しい状況に

ありますが、世界的には水産物需要の増大など追い風も吹いています。

このような状況の中で、農林水産省では、「攻めの農林水産業」の一環として、「水産日本の復活」の実現に向けて、漁業者自ら収入向上等に取り組

む一浜の活力再生プランや漁村地域が連携して漁業の活性化に取り組む「広域浜プラン」の策定を推進するとともに、HACCPに対応した流通・加工施設の整備等に

関係する水産物輸出の拡大等に取り組むこととしております。

また、これらの取組の基盤として重要な役割を果たしている漁港・漁場の漁村の整備においては、輸出促進や国際競争力の強化を図る拠点漁港の整備、自然災害に備えた防

災・減災対策などを推進しているところであります。

さらに、現行の漁港漁場整備長期計画が今年度で終期を迎えることから、現在、次期計画の検討を進めているところであります。

今後、全国の関係者の皆様のご意見をいただきながら、水産業の成長産業化や漁村の活性化を目指し計画を策定してまいります。

今後とも、水産基盤整備等に必要とする予算の確保と制度の充実が図られるよう努力してまいります。

また、全国の関係者の皆様におかれましては、引き続きお力添えいただきまして、よろしくお願いたします。

結びに、本大会の成功と、我が国水産業・漁村の益々の発展、並びに本日御出席の皆様方の御健勝を祈念いたします。

私の挨拶といたします。

本日ここに、第67回全国漁港漁場大会が開催されるに当たり、参議院農林水産委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。

本日ご参集の皆様方に申し上げます。

我が国水産業と漁村は、安全で良質な水産物を食卓に供給し、世界に誇る「和食」をかたちづくり、日本の食文化を支えてきました。

しかし、近年では、漁業従事者の高齢化と後継者不足、漁業生産量の減少、水産物の消費の減少など大変厳しい状況が続いて

おります。

現在の漁港漁場整備長期計画は今年度が最終年度となっており、我が国の豊かな漁食文化を次世代に引き継ぐために、水産業の発展と漁村の活性化が不可欠です。

新たな長期計画は、現場が抱える多くの課題を踏まえて策定されることが必要と考えております。

近年、大規模地震発生頻度が高まり、また、大規模台風の襲来等による自然災害が増加

しております。

現在、水産業は我が国が本格的な人口減少社会を迎えることによる水産物国内消費の伸び悩みや漁業従事者の減少・高齢化、地球温暖化の影響等

による、漁期や漁場の大きな変動、或いは台風や低気圧の強大化による漁港・漁場の被害など、多くの課題を持っています。

このため我が国水産業を持続的に安定的な成長産業として復活させるため、漁港の衛生管理対策の向上や流通の効率化により水産物の輸出を推進する

こと、広域的な海洋環境の改善により、水産資源の回復を図るなど、迅速な水産基盤の整備

してまいります。

東日本大震災からの復旧・復興を一日も早く成し遂げるとともに、全国の漁港・漁村における防災・減災対策の推進が求められて

おります。

また、耐用年数を超える漁港施設が増え、有効活用を一層推進する必要があると

思っています。

私は、皆様のご提言を踏まえ、参議院農林水産委員会において活発かつ有意義な議論が行われるよう、全力で取り組ん

でまいります。

最後に、本大会のご成功と、本日ご参集の皆様をはじめ関係者の方々のご健勝、ご発展をお祈り申し上げます。

私の挨拶といたします。

本日ここに、第67回全国漁港漁場大会が開催されるに当たり、参議院農林水産委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。

本日ご参集の皆様方に申し上げます。

我が国水産業と漁村は、安全で良質な水産物を食卓に供給し、世界に誇る「和食」をかたちづくり、日本の食文化を支えてきました。

しかし、近年では、漁業従事者の高齢化と後継者不足、漁業生産量の減少、水産物の消費の減少など大変厳しい状況が続いて

おります。

現在の漁港漁場整備長期計画は今年度が最終年度となっており、我が国の豊かな漁食文化を次世代に引き継ぐために、水産業の発展と漁村の活性化が不可欠です。

新たな長期計画は、現場が抱える多くの課題を踏まえて策定されることが必要と考えております。

近年、大規模地震発生頻度が高まり、また、大規模台風の襲来等による自然災害が増加

しております。

現在、水産業は我が国が本格的な人口減少社会を迎えることによる水産物国内消費の伸び悩みや漁業従事者の減少・高齢化、地球温暖化の影響等

による、漁期や漁場の大きな変動、或いは台風や低気圧の強大化による漁港・漁場の被害など、多くの課題を持っています。

このため我が国水産業を持続的に安定的な成長産業として復活させるため、漁港の衛生管理対策の向上や流通の効率化により水産物の輸出を推進する

こと、広域的な海洋環境の改善により、水産資源の回復を図るなど、迅速な水産基盤の整備

してまいります。

東日本大震災からの復旧・復興を一日も早く成し遂げるとともに、全国の漁港・漁村における防災・減災対策の推進が求められて

おります。

また、耐用年数を超える漁港施設が増え、有効活用を一層推進する必要があると

思っています。

私は、皆様のご提言を踏まえ、参議院農林水産委員会において活発かつ有意義な議論が行われるよう、全力で取り組ん

でまいります。

最後に、本大会のご成功と、本日ご参集の皆様をはじめ関係者の方々のご健勝、ご発展をお祈り申し上げます。

私の挨拶といたします。

本日ここに、第67回全国漁港漁場大会が開催されるに当たり、参議院農林水産委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。

本日ご参集の皆様方に申し上げます。

我が国水産業と漁村は、安全で良質な水産物を食卓に供給し、世界に誇る「和食」をかたちづくり、日本の食文化を支えてきました。

しかし、近年では、漁業従事者の高齢化と後継者不足、漁業生産量の減少、水産物の消費の減少など大変厳しい状況が続いて

おります。

現在の漁港漁場整備長期計画は今年度が最終年度となっており、我が国の豊かな漁食文化を次世代に引き継ぐために、水産業の発展と漁村の活性化が不可欠です。

新たな長期計画は、現場が抱える多くの課題を踏まえて策定されることが必要と考えております。

近年、大規模地震発生頻度が高まり、また、大規模台風の襲来等による自然災害が増加

しております。

現在、水産業は我が国が本格的な人口減少社会を迎えることによる水産物国内消費の伸び悩みや漁業従事者の減少・高齢化、地球温暖化の影響等

による、漁期や漁場の大きな変動、或いは台風や低気圧の強大化による漁港・漁場の被害など、多くの課題を持っています。

このため我が国水産業を持続的に安定的な成長産業として復活させるため、漁港の衛生管理対策の向上や流通の効率化により水産物の輸出を推進する

こと、広域的な海洋環境の改善により、水産資源の回復を図るなど、迅速な水産基盤の整備

してまいります。

東日本大震災からの復旧・復興を一日も早く成し遂げるとともに、全国の漁港・漁村における防災・減災対策の推進が求められて

おります。

また、耐用年数を超える漁港施設が増え、有効活用を一層推進する必要があると

思っています。

私は、皆様のご提言を踏まえ、参議院農林水産委員会において活発かつ有意義な議論が行われるよう、全力で取り組ん

でまいります。

最後に、本大会のご成功と、本日ご参集の皆様をはじめ関係者の方々のご健勝、ご発展をお祈り申し上げます。

私の挨拶といたします。

祝 辞

衆議院農林水産委員長 北村 茂男



本日ここに、第67回全国漁港漁場大会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

まず、本日御列席の皆様をはじめ、日頃より漁港・漁場の整備の推進に格段の御尽力をい

ただいております。各位に対し、衆議院農林水産委員会を代表して、深く敬意を表する次第であります。

ご承知のとおり、我が国水産業・漁村は、新鮮で安全な水産物を安定的に供給する役割だけでなく、豊かな自然環境の形成、海の安全・安心の提供など、国民の豊かな生活を支える多面的な機能

を発揮しております。しかしながら、我が国水産業・漁村をめぐる情勢は、水産物消費の低迷、漁村の高齢化・人口減少など、極めて厳しい状況が続いているとともに、東日本大震災からの復興や、大規模災害に対する漁港・漁村の防災・減災対策、加えて、熊本大地震や、本年8月から連続した台風による被害への対応が重要な課題となっております。

こうした状況に対処するため、補正予算なども含め、各般の施策を展開されております。また、「農林水産業・地域の活力創造プラン」では、かつては世界一を誇った日本の

水産業の復活が謳われ、浜の活性化や資源管理の取組、水産物の出口戦略・マーケットインの展開による消費・輸出の拡大等が掲げられております。これらの施策の展開にあたり、十分な予算の確保が求められるところであります。

さらに、現在、政府においては、新たな「水産基本計画」及び、これと連携した新たな「漁港漁場整備長期計画」策定に向けて検討が進められており、来年3月に両計画が閣議決定される予定と承知しております。

このようなき、全国の漁港・漁場・漁村の関係者が一堂に会され、水産業・漁村の活性化の推進等に向けて、決意を新たにさせていただきます。誠に意義深いものがあると思います。

私も衆議院農林水産委員会といたしましては、皆様の御意見を十分踏まえ、水産業・漁村の再生のために、活発な議論を展開し、豊かで活力ある漁港・漁場・漁村の実現を図られますよう、全力を傾注してまいります。

終わりに、本大会の御成功と皆様方の御健勝を心からお祈りいたします。私の挨拶とさせていただきます。

祝 辞

参議院農林水産委員長 渡辺 猛之



本日ここに、第67回全国漁港漁場大会が開催されるに当たり、参議院農林水産委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。

本日ご参集の皆様方に申し上げます。

我が国水産業と漁村は、安全で良質な水産物を食卓に供給し、世界に誇る「和食」をかたちづくり、日本の食文化を支えてきました。

しかし、近年では、漁業従事者の高齢化と後継者不足、漁業生産量の減少、水産物の消費の減少など大変厳しい状況が続いて

おります。

現在の漁港漁場整備長期計画は今年度が最終年度となっており、我が国の豊かな漁食文化を次世代に引き継ぐために、水産業の発展と漁村の活性化が不可欠です。

新たな長期計画は、現場が抱える多くの課題を踏まえて策定されることが必要と考えております。

近年、大規模地震発生頻度が高まり、また、大規模台風の襲来等による自然災害が増加

しております。

現在、水産業は我が国が本格的な人口減少社会を迎えることによる水産物国内消費の伸び悩みや漁業従事者の減少・高齢化、地球温暖化の影響等

による、漁期や漁場の大きな変動、或いは台風や低気圧の強大化による漁港・漁場の被害など、多くの課題を持っています。

このため我が国水産業を持続的に安定的な成長産業として復活させるため、漁港の衛生管理対策の向上や流通の効率化により水産物の輸出を推進する

こと、広域的な海洋環境の改善により、水産資源の回復を図るなど、迅速な水産基盤の整備

してまいります。

東日本大震災からの復旧・復興を一日も早く成し遂げるとともに、全国の漁港・漁村における防災・減災対策の推進が求められて

おります。

また、耐用年数を超える漁港施設が増え、有効活用を一層推進する必要があると

思っています。

私は、皆様のご提言を踏まえ、参議院農林水産委員会において活発かつ有意義な議論が行われるよう、全力で取り組ん

でまいります。

最後に、本大会のご成功と、本日ご参集の皆様をはじめ関係者の方々のご健勝、ご発展をお祈り申し上げます。

私の挨拶といたします。

本日ここに、第67回全国漁港漁場大会が開催されるに当たり、参議院農林水産委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。

本日ご参集の皆様方に申し上げます。

我が国水産業と漁村は、安全で良質な水産物を食卓に供給し、世界に誇る「和食」をかたちづくり、日本の食文化を支えてきました。

しかし、近年では、漁業従事者の高齢化と後継者不足、漁業生産量の減少、水産物の消費の減少など大変厳しい状況が続いて

おります。

現在の漁港漁場整備長期計画は今年度が最終年度となっており、我が国の豊かな漁食文化を次世代に引き継ぐために、水産業の発展と漁村の活性化が不可欠です。

新たな長期計画は、現場が抱える多くの課題を踏まえて策定されることが必要と考えております。

近年、大規模地震発生頻度が高まり、また、大規模台風の襲来等による自然災害が増加

しております。

現在、水産業は我が国が本格的な人口減少社会を迎えることによる水産物国内消費の伸び悩みや漁業従事者の減少・高齢化、地球温暖化の影響等

による、漁期や漁場の大きな変動、或いは台風や低気圧の強大化による漁港・漁場の被害など、多くの課題を持っています。

このため我が国水産業を持続的に安定的な成長産業として復活させるため、漁港の衛生管理対策の向上や流通の効率化により水産物の輸出を推進する

こと、広域的な海洋環境の改善により、水産資源の回復を図るなど、迅速な水産基盤の整備

してまいります。

東日本大震災からの復旧・復興を一日も早く成し遂げるとともに、全国の漁港・漁村における防災・減災対策の推進が求められて

おります。

また、耐用年数を超える漁港施設が増え、有効活用を一層推進する必要があると

思っています。

私は、皆様のご提言を踏まえ、参議院農林水産委員会において活発かつ有意義な議論が行われるよう、全力で取り組ん

でまいります。

最後に、本大会のご成功と、本日ご参集の皆様をはじめ関係者の方々のご健勝、ご発展をお祈り申し上げます。

私の挨拶といたします。

祝 辞

漁港漁場漁村整備促進議員連盟連会長 衛藤 征士郎



ただ今、紹介にあずかりました漁港漁場漁村整備促進議員連盟連会長の衛藤であります。

御列席の皆様には、日ごろから漁港漁場漁村の整備を通じ、我が国水産業の振興と漁村の発展にご尽力を頂いております、感謝

申し上げます。

我々は漁港漁場漁村の整備を促進し、豊かな漁村社会の建設に寄与することを目的として議員連盟を作り、その趣旨に賛同する衆参合わせて140余名の国会議員で活動しています。

漁港漁場漁村の整備を促進し、豊かな漁村社会の建設に寄与することを目的として議員連盟を作り、その趣旨に賛同する衆参合わせて140余名の国会議員で活動しています。

漁港漁場漁村の整備を促進し、豊かな漁村社会の建設に寄与することを目的として議員連盟を作り、その趣旨に賛同する衆参合わせて140余名の国会議員で活動しています。

8月末に農水省から財務省へ平成29年度予算の概算要望書が提出されました。水産基盤整備予算の要求は84.0億円。今般の予算要求は、地域にとって緊急性の高い諸施策が盛り込まれていま

ありますが、平成29年度予算は次期長期計画の初年度として特に重要な意味を持つので、全国各地の水産業及び漁村を支えていく観点から、予算の満額獲得を目指さなければなりません。

我が国水産業が活力を取り戻し、水産業を支える地域が活性化されるよう、議員連盟としてベストを尽くしていく所存であります。

最後に、本大会の成功と我が国水産業及び漁村の発展、またご列席の皆様方のご健勝、ご発展を心から祈念いたします。ありがとうございます。

取組事例1

漁港なくして漁業なし、生活もなし

三重県鳥羽磯部漁業協同組合監事(元水産庁)

佐藤 力生



三重県下の漁村に移り住み、漁業現場を経験すること... 漁港なくして漁業なし、生活もなし

道路や橋などと違う「命のかよった構造物」なのです。熊野市の18軒中16軒が離村し、消滅寸前の半林・半漁の集落を見て、ここに漁港さえあったらなごころまで衰退しなかつたらどうかと思いましたが、漁港があったからこそ、人が住み、魚を獲ることができ、漁業も生活もいなければ漁業も生活もいけません。

日に備え、漁港は絶対に減らしてはならないと強く思います。今私が住むJF鳥羽磯部漁協答志支所の水揚金額は、この12年間で1.5倍にも増加しました。その大きな要因は積極的な漁港整備です。特に新設漁港、舟越地区は漁船の稼働日数の向上とフリ養殖の水揚金額の増加に大きく貢献しました。

出席された来賓(省庁など)

Table listing attendees from government agencies such as the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, and the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism.

出席された来賓(団体)

Table listing attendees from various industry associations and organizations, including the Japan Fisheries Association and local unions.

事業名：水産生産基盤整備事業 地区名：舟越地区(三重県鳥羽市)

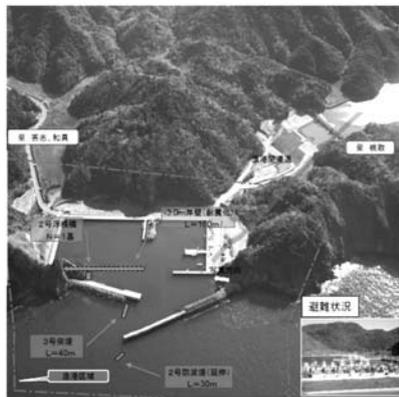
要求理由

●地区の概要

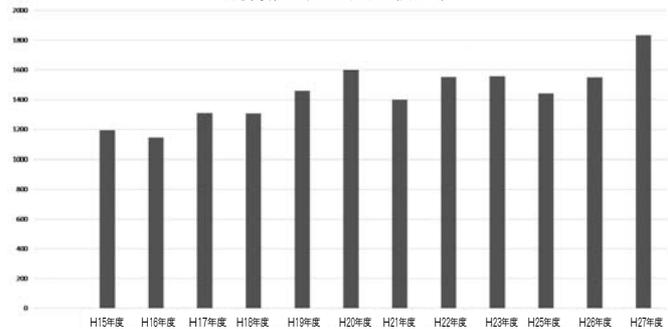
当地区は伊勢湾口の志志島内伊勢湾奥向きに開口しており、島内3漁港の避難港として整備を進めている。志志島は離島であるにも拘わらず、海上からの緊急物資の輸送基地が整備されていない状況にある。

●目的

ブリ・ワカメ養殖の生産性を向上させるため、洋き棧橋及び防波堤の整備により、設備作業の効率化及び安全な航路の確保を図る。風浪による港内静穏を確保するため、3号突堤の整備により、漁船の安全係留を促進する。また地域防災計画に基づく防災拠点として位置づけ、地震・津波等有事の際に、緊急輸送の確保や早期の漁業活動再開のため、耐震強化岸壁を整備することにより、地域経済の早期復興に資するとともに、水産物の安定供給を図る。



答志支所の水揚げ金額推移(百万円)



取組事例2

水産業の競争力強化と輸出促進

鹿児島県東町漁業協同組合 代表理事組合長

長元 信男



長島町の概要

鹿児島県の北西、最北端に位置し、人口約1万人の小さな町で、東は八代海に面して九州全土を臨み、西は長島海峡を挟んで大草と対峙しており、長島本島・獅子島・伊唐島・諸浦島ほか23の島々が点在し、極めて恵まれた自然豊かな町で、極めて恵まれた自然豊かな産物の町であります。

当組合は、養殖漁業を中心とした沿岸漁業が盛んに営まれており、現在単一漁協としては、「日本のブリ産地」として、「龍王」ブランドのもと国内は基より海外輸出も国内水産業の先陣として躍進し続けております。

中心となる漁港は、薄井漁港で昭和29年10月に第1種漁港に指定され、昭和40年3月に第2種漁港、平成14年3月に第3種漁港と格上げされました。

昭和60年代に入ると薄井漁港対岸の竹島側の漁港整備を展開しており、JF東町では、昭和57年に対米輸出を開始し、昭和63年に竹島に加工処理施設を新設し、平成6年に完全閉鎖型HACCP対応の加工場を新設しました。平成7年に水産物の輸送効率化を目的に長島本島と竹島を結ぶ竹島大橋が開通し、その後平成10年にHACCP認証、平成15年に対EU輸出水産食品取扱い施設に認定とともに養殖魚では国内で初めてでありました。現在では、年間100万尾のブリを加工販売し、取扱高は50億円以上であります。更に高次化の加工を行うために平成25年に第2加工場を建設しております。

また、漁業者の就労改善を目的とした浮き棧橋を薄井漁港内に2基、竹島側に2基整備、衛生管理に配慮した荷揚場や岸壁に屋根の整備をしております。

その間、品質の均一化と環境保全を目的にオリジナル飼料の開発と推進、天然資源に依存しない持続可能な養殖と早期種苗による育成期間の短縮による効率化、品質の向上を目指して人工種苗の導入も行っております。

平成27年度には、6次化ファンドを活用して漁協では国内初となる株式会社を設立し、新たな流通と販路拡大に取組み始めたところであります。平成27年度の経済事業取扱高は32.9億円です。うち販売事業の取扱高11.5億円、加工事業の取扱高56億円、うち海外輸出が20億円の高額となっており、今後は、海外輸出の倍増を目指し、国内販売も新たな展開を見据えた挑戦を続けて参ります。

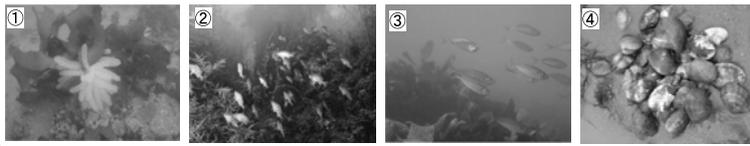
豊かな海を育てる藻場・干潟の回復に向けて

取組事例3

豊かな海を育てる 藻場・干潟の回復に向けて

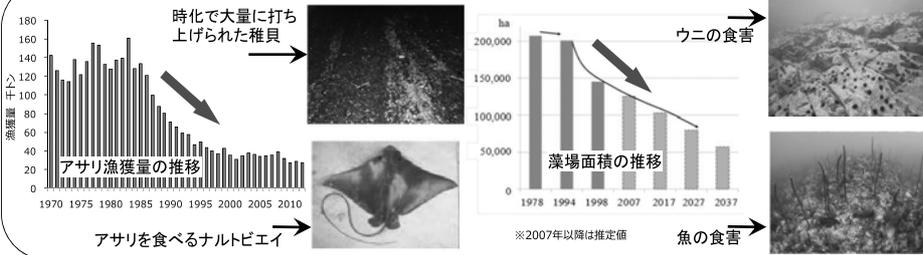
国立研究開発法人水産研究・教育機構
研究推進部 研究開発コーナー
桑原 久実

藻場・干潟は水産資源にとって重要な場所

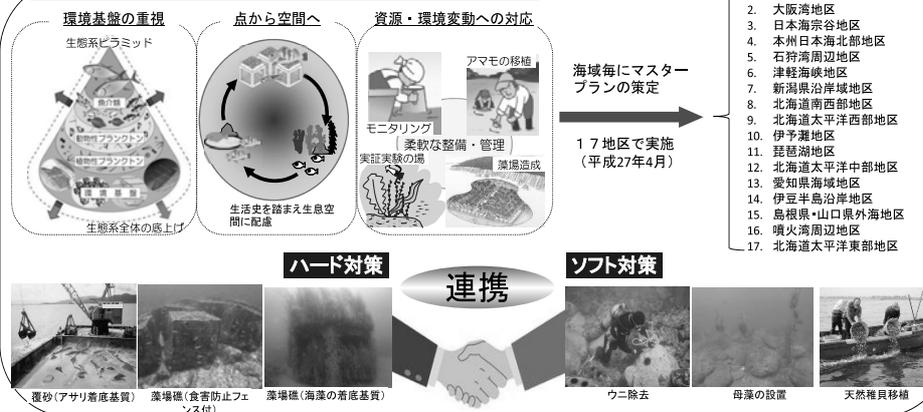


- ①カジメに付着するヤリイカの卵塊
- ②ガラモに群れるメバル
- ③クロモに群れるアジ
- ④干潟に生育する高密度のアサリ

藻場の減少、干潟の機能低下は深刻な問題



水産環境整備を活用した藻場・干潟の回復、そして水産資源の復活へ



藻場・干潟は、豊かな生態系を育む機能を有し、水産生物の産卵場、餌場、幼稚仔の保護・育成場として、重要な役割を担っています。しかし、高度経済成長期の沿岸域の開発や昨今の気候変動に伴う海水温上昇等の影響により、藻場面積の減少、干潟機能の低下が顕著になっていきます。

このことは、藻場・干潟を利用する水産生物に大きく影響し、沿岸漁業の生産量が低下しています。

大分県佐伯市名護屋は、2007年から「大規模磯焼け対策促進事業」の藻場再生の実証モデル地区に選定され、潜水漁業者が主体となり、国や県の専門家らの協力を得て、本格的な磯焼け対策を開始しました。全く海藻が見られなかった海底は、漁業者によるウニ除去、海藻を食べる魚の除去、小学生の協力を得た海藻のタネ播き、稚エビの住み処を提供する施設などにより、2013年頃からウニの密度は、ほぼゼロになり、それは急激に増加しました。

面積は約100ヘクタールになり、稚エビや魚類も回復する傾向にあります。水産庁は、この事例のような

藻場・干潟をはじめ豊かな水産資源を回復するために「水産環境整備事業」を実施しています。本事業は、生態系全体の生産力の底上げを目指す（環境基盤の重視）、水産生物の動態や生活史に対応した良好な生息空間を創出する整備（点から空間へ）、資源や環境の変動を踏まえた柔軟な整備・維持管理とそれに必要なモニタリング（資源・環境変動への対応）を基本方針に定めています。

具体的には、計画（マスタープラン）策定を十分に行った上で、それに基づいて実施することになります。

藻場・干潟の回復は、まず、回復を阻害している制限要因を特定し、次に、その要因の除去・緩和手法を検討します。制限要因を特定しないで対策を実施しても試行錯誤になる危険があるためです。また、対策には、ハード対策とソフト対策があります。両者の特徴を良く理解した上で、有機的な連携を十分考慮し、藻場・干潟対策などを積極的に進める必要があります。

平成6年建設の加工場



薄井漁港と竹島



長島本島と竹島を結ぶ橋



活魚ボンツーン (活魚生簀付き浮桟橋)



市場前に整備された屋根

2016 漁港漁場漁村海岸写真コンクール

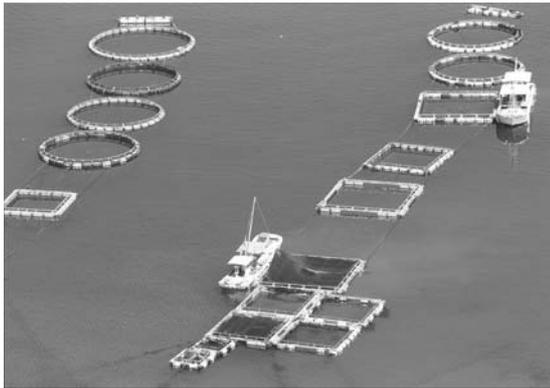
特選1席

農林水産大臣賞



特選2席

水産庁長官賞



入賞作品決定!

(公社) 全国漁港漁場協会と全国漁港海岸防災協会の共催(一財) 漁港漁場漁村総合研究所と(一社) 水産土木建設技術センターの協賛、水産庁後援による2016漁港漁場漁村海岸写真コンクールの入賞作品が、第67回全国漁港漁場大会の場で発表された。

同コンクールの作品審査は9月14日に行われ、入賞作品は、パンフレットにまとめられて大会参加者に配布された。

入賞作品は、特選1席(農林水産大臣賞) 1点、特選2席(水産庁長官賞) 1点、特選3席(全国漁港漁場協会会長賞、全国漁港海岸防災協会会長賞、漁港漁場漁村総合研究所理事長賞、水産土木建設技術センター理事長賞) 各1点、入選5点、佳作10点で、入賞者は別表の通り。

なお、入賞作品は全国漁港漁場協会のホームページに掲載しています。

特選3席 全国漁港漁場協会会長賞



特選3席

全国漁港海岸防災協会会長賞



2016漁港漁場漁村海岸写真コンクール入賞者一覧

入賞	題名	氏名
特選1席	ミーティング	山口 光子(岩手県宮古市)
特選2席	船と生簀模様	米倉 勝(鹿児島県出水市)
特選3席	小名浜漁港、出漁	門林 泰志郎(福島県いわき市)
特選3席	鍛錬	石角 尚義(香川県三豊市)
特選3席	今が旬	斎藤 敏雄(神奈川県大磯町)
特選3席	大漁旗なびかせ!	井戸田 洋二(愛知県小牧市)
入選	春を待つ	宮田 敏幸(兵庫県西宮市)
入選	新春の漁港	牧野 慎三(兵庫県明石市)
入選	笑顔	藤浦 武久(大分県佐伯市)
入選	大漁! 大漁!	仲川 幸延(愛媛県宇和島市)
入選	初孫	平井 正友(神奈川県横浜市)
佳作	厳寒のホッキ漁	清重 悟(北海道幕別町)
佳作	帰港	松本 晋児(徳島県美波町)
佳作	夏の路地裏	山本 安男(兵庫県神戸市)
佳作	活気溢れるマクロ漁	谷津 和正(静岡県静岡市)
佳作	サングワチャー	仲程 梨枝子(沖縄県那覇市)
佳作	地引網に群がるカモメ	小栗山 秀男(千葉県九十九里町)
佳作	あうん	田中 嘉宏(和歌山県紀の川市)
佳作	小友祇園祭	長谷川 裕二(長崎県佐世保市)
佳作	天日干し	三ツ井 道代(静岡県掛川市)
佳作	男たちの祭り	斎藤 雄幸睦(岡山県岡山市)

特選3席

漁港漁場漁村総合研究所理事長賞



特選3席

水産土木建設技術センター理事長賞



